

令和5年度病害虫発生予察注意報第1号

令和5年9月29日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
対象作物：かんきつ、落葉果樹（かき、キウイフルーツ等）

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域： 県内全域
- (2) 発生が予想される時期： 9～10月
- (3) 発生程度： 多い
- (4) 防除時期： 9～10月

2 注意報発表の根拠

- (1) 県内4か所の予察灯における9月上中旬の合計誘殺数の平均は、チャバネアオカメムシが770頭/か所（平成360頭/か所、平成比2.1倍）（図1）、ツヤアオカメムシが549頭/か所（平成258頭/か所、平成比2.1倍）（図2）、クサギカメムシが39.3頭/か所（平成24.6頭/か所、平成比1.6倍）（データ省略）であり、いずれも平成より多かった。特に、西部地域の予察灯（磐田市2か所、浜松市1か所）において果樹カメムシ類の誘殺が多かった（図1、図2）。
- (2) 県内6か所のフェロモントラップにおける9月上中旬の合計誘殺数の平均は、チャバネアオカメムシが79.5頭/か所（平成61.7頭、平成比1.3倍）と平成よりやや多く、9月に入り県内全域で誘殺数が増加している（図3）。
- (3) 果樹カメムシ類の好適な餌であるヒノキ球果（種子）において、球果1個あたりの本虫吸汁痕数が25を超えると、本虫はヒノキから離脱し、餌を求めて果樹園に飛来するとされている。9月上中旬のヒノキにおける球果1個あたりの吸汁痕数は、平均13.4（平成15.0）と平成並であったが、吸汁痕数が既に25を超えている場所もあるため、本虫がヒノキから離脱している可能性もある。
- (4) 本年は、県内全域において本虫の数に対して餌となるヒノキ・スギ球果の着果量が少なかった（図4）ことから、本虫が餌を求めて果樹園へ飛来し、果実を加害する恐れがある（図5）。
- (5) 果樹関係の病害虫防除員からの報告によると、15名中7名が果樹カメムシ類の発生が「多い」または「やや多い」と回答した。これら多発の報告は、特に中部・西部地域で多く、一部の果樹園（特に中山間地）で本虫の飛来を確認したとの情報も複数寄せられている。

3 防除方法

- (1) 本虫の飛来に注意し、ほ場で発生を確認したら直ちに薬剤防除を行う。成虫の移動範囲は広いいため、地域での一斉防除が効果的である。ヒノキ・スギ林の隣接地域（特に中山間地）や台風通過後の園地では、急激に発生が増加する可能性があるため注意する。
- (2) 薬剤防除については、「静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」（<https://www.s-boujo.jp/>）を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数に注意する。
- (3) 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ（<https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>）で提供している「害虫誘殺グラフ（果樹カメムシ類）」を参考にする。
- (4) 本虫の発生は例年10月末で終息するが、最高気温が20℃を超える場合は11月でも発生することがあるため注意する。
- (5) 不明な点については病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

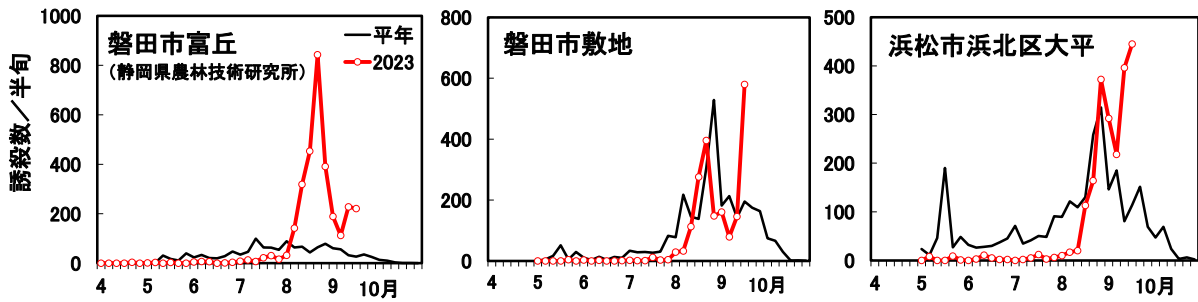


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

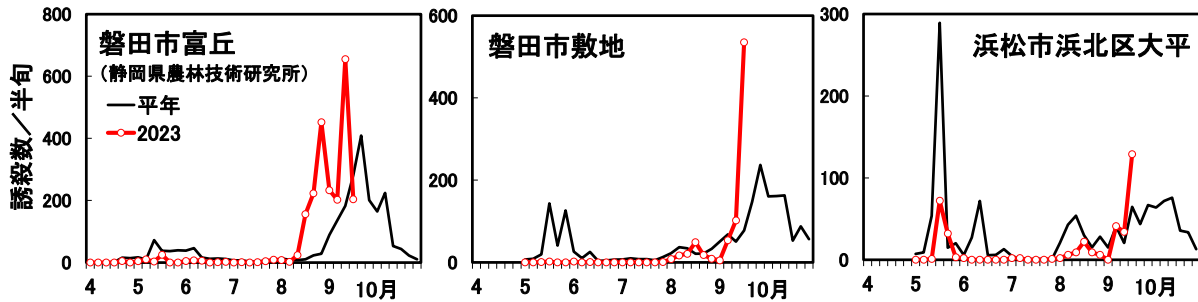


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺状況

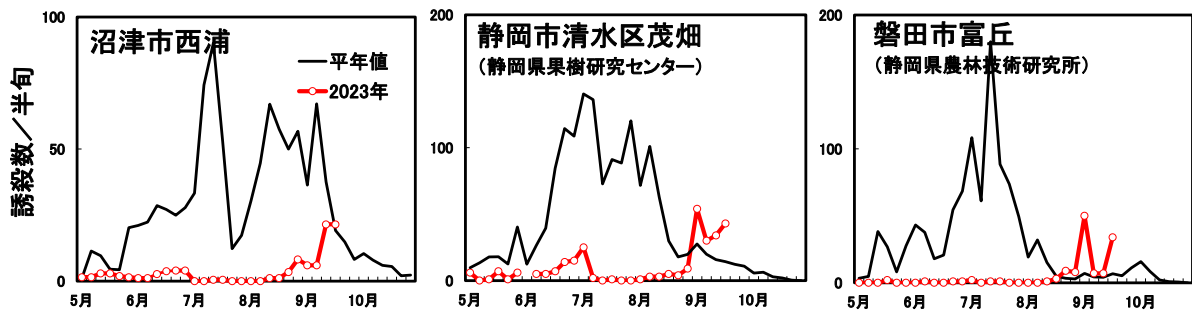


図3 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺状況



チャバネアオカメムシ成虫



ツヤアオカメムシ成虫



クサギカメムシ成虫

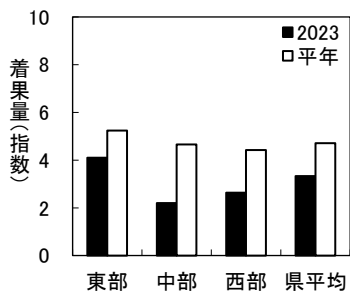


図4 ヒノキ・スギ球果の着果量



カメムシの加害により
変色した みかん



カメムシの加害により
陥没した かし

図5 果樹カメムシ類とその被害果